

「食べて復興」能登応援プロジェクト

指導教員	北陸大学	助教	坂口雄介			
参加学生	4年	今坂紗来	水野あい	田中紀良里	矢地未奈美	
	3年	森田真未子 松田幸子	安藤日菜	川上凌汰	松瀬遥都	遠田麗衣
	2年	定徳晴貴 石橋稚愛姫	新谷花怜	神美優	福澤尚仁	安田杏奈
	1年	濱本ほのか	萩原ほのか			

北陸大学SIGHT×奥能登食材流通機構 「食べて復興」能登応援プロジェクト

経済学の理論やそれを活かしたまちづくりについて学ぶ学生が、能登町で海産物の加工・流通を行う株式会社奥能登食材流通機構と連携し、「食」を軸とした商品開発と販売を行うことで、能登の魅力発信と関係人口の創出による創造的復興に貢献することを目指す。

「食べて復興応援」商品第一弾
「能登ぶりそぼろ」



首都圏イベントへの出展

さいしんビジネスフェア
@さいたまスーパーアリーナ



シモキタ三ツ星バザール
@下北沢駅前広場



100個 瓶詰め商品 完売

瓶詰め商品 ぶりそぼろ丼
200個 100杯 完売

製造体験@奥能登食材流通機構



地域資源の価値を深く感じた。
皆さんの思いを知れてより頑張ろうと思った。



マッチングイベント出展

@第12回Matching HUB Hokuriku 2025



循環型ビジネスの展開につながる意見交換



問い合わせ先:北陸大学SIGHT顧問 坂口雄介 (y-sakaguchi@hokuriku-u.ac.jp)

1. 活動の要約

本活動では、経済学や心理学を学ぶ学生が株式会社奥能登食材流通機構（能登町）と連携し、「食べて復興応援」商品を通じて関係人口の創出と創造的復興に貢献することを目的とした。共同開発した「能登ぶりそぼろ」を商品化し、首都圏イベント等で販売した結果、瓶詰め商品 700 個（イベントで 300 個、宿泊施設向けに 400 個）、ぶりそぼろ丼 100 杯を販売し、能登の復興と魅力を広く発信できた。

2. 活動の目的

経済学や心理学の理論とそれに活かしたまちづくりを学ぶ学生が、知識と企画力をもとに、能登町で海産物の加工・流通を行う株式会社奥能登流通機構と連携し、「食」の商品開発と販売を行うことで、能登の魅力発信と関係人口の創出により創造的復興に貢献することを目的とした。

3. 活動の内容

奥能登食材流通機構と協力しながら試作・試食を重ね、「食べて復興応援」商品の第一弾「能登ぶりそぼろ」を開発した。2025 年 1 月 19 日に開催された「宇出津港のと寒ぶりまつり」にて販売し、2 時間で 250 食を完売した。その「能登ぶりそぼろ」をベースに、今年度は以下の活動に取り組んだ。

① さいしんビジネスフェア 2025 への出展

6 月 11 日（水）、さいたまスーパーアリーナで開催された「さいしんビジネスフェア 2025」にて、能登応援コーナーにブースを出展した。さいしんビジネスフェアは、中小企業の販路拡大や業種・地域を超えたビジネスマッチング、食・特産・伝統工芸品の紹介を目的としたイベントで、当日は約 300 の企業等が参加した大規模な展示・商談会である。



◆北陸大学 HP「北陸大学 SIGHT がさいしんビジネスフェア 2025 にて能登の魅力と復興をアピール」

<https://www.hokuriku-u.ac.jp/sptopics/202506131214.html>

② 奥能登流通機構にて「能登ぶりそぼろ」の製造過程を体験

9 月 4 日（木）、奥能登食材流通機構の加工場の見学と、「能登ぶりそぼろ」が作られるまでの一連の製造過程を体験した。

◆北陸大学 HP「北陸大学 SIGHT が奥能登食材流通機構で加工作業を体験」

<https://www.hokuriku-u.ac.jp/sptopics/202509091455.html>



③ シモキタ三ツ星バザール 2025 への出展

11 月 2 日（日）～3 日（月・祝）、下北沢駅前広場で開催された「シモキタ三ツ星バザール 2025」にてブースを出展した。シモキタ三ツ星バザールは、全国の魅力を発見・発信することを目的としたイベントで、今年は食品や雑貨など 62 ブースが出展した。

◆北陸大学 HP「北陸大学 SIGHT が「シモキタ三ツ星バザール 2025」にて能登の魅力と復興をアピール」

<https://www.hokuriku-u.ac.jp/sptopics/202511051132.html>



④ 第12回 Matching HUB Hokuriku 2025 の北陸大学ブースでの展示

11月13日(木)～14日(金)、ANAクラウンプラザホテル金沢にて開催された「第12回 Matching HUB Hokuriku 2025」にて、「能登ぶりそぼろ」を展示した。Matching HUB Hokuriku は、北陸先端科学技術大学院大学が中心の地方創生に向けた地域発の産学官金のマッチングを目的としたイベントで、今年は約200ブースが出展した。



4. 活動の成果

① さいしんビジネスフェア 2025 への出展

本イベントでは瓶詰め商品が100個完売した。また、イベントMCを務めたタレントのゴルゴ松本氏から「これおいしいね！大学生すごいぞ！能登頑張っていこうね！」とPRと応援をいただいた。

② 奥能登流通機構にて「能登ぶりそぼろ」の製造過程を体験

ぶりの捌き方や製造過程を体験した。参加した学生からは以下の感想が寄せられた。

- ・実際に自分の手を動かしてみることで、地域資源の価値をより深く感じ、理解することができた。
- ・皆さんから地元への思いを聞いて、この商品をきっかけに能登の魅力を発信していきたいと思った。

③ シモキタ三ツ星バザール 2025 への出展

本イベントでは瓶詰め商品200個と能登ぶりそぼろ丼100杯が即完売し、多くの来場者に好評をいただいた。温かいメッセージも多数寄せられ、能登への関心や応援の広がりを感じることができた。

④ 第12回 Matching HUB Hokuriku 2025 の北陸大学ブースでの展示

本イベントでは複数の県内企業や研究機関と意見交換ができた。能登地域で事業展開している企業から、「連携して能登地域内での循環型ビジネスとして展開していきたい」と提案をいただいた。

これら成果に加え、能登町宿泊施設のおせち料理にぶり40キロ分、瓶詰め商品に換算すると400個分が使用された。商工会等との連携も始まり、次年度以降の発展的な活動が見込める1年となった。

5. 今後の活動計画

次年度も奥能登食材流通機構と共同で、能登ぶりそぼろの波及や新商品の開発・販売に取り組む。また、地元企業や地域住民とも連携し、道の駅やサービスエリア等への出荷を目指す。

6. 活動に対する地域からの評価

令和6年1月の能登半島地震の被害をうけ、水産物が獲れず水産加工品が作れない日々が続き悶々とするなか、大学行事を通じて皆様とご縁がございました。能登のぶりを使い、大学側との共同開発で能登の復興と魅力を発信できる商品づくりをさせていただき、復興へと一歩前進するきっかけを与えていただきました。学生たちの物づくりに対するアイデアとパワーに日々感心しながら、私どもが提案した無理難題にも、迅速に対応していただき、この新商品が誕生したと思います。またこのぶりそぼろを通じて、たくさんのイベントにも参加することができ、たくさんの企業様や地元のイベントなどでも高評価をいただきました。

たくさんの方々からの暖かいお言葉に励まされ、現在も着実に商品づくりが出来ております。今後も能登の復興と魅力発信をテーマに、商品づくりにご協力いただければ幸いです。

(株式会社奥能登食材流通機構 笹野弘子)